水城について知ろう！①

太宰府市や大野城市、春日市で「水城（みずき）」という名前を聞いたことはありませんか？この名前は、7 世紀に造られた遺跡が基になっています。この水城とは、どんなものでなんのために造られたのか、学習していきましょう。

駅の名前や、建物の名前でよく聞くけど、元々の水城ってどんなものなの？

水城は 7 世紀に造られた防衛のための施設だよ！
どんな場所なのか詳しく見ていこう！

〈水城を造った理由〉

水城が造られた 7 世紀は、東アジアにとって動乱の時代でした。唐と周辺国家の衝突、朝鮮半島諸国の緊張状態が続き、倭（当時の日本）は友好関係のあった百済に援軍を送りましたが、663 年の白村江の戦いで大敗してしまいます。

白村江の戦いで敗戦した日本は、唐や新羅からの侵攻に備えて様々な準備を行うことになります。その 1 つに、博多湾に上陸した敵の侵攻ルートを塞ぐため、水城が築造されました。

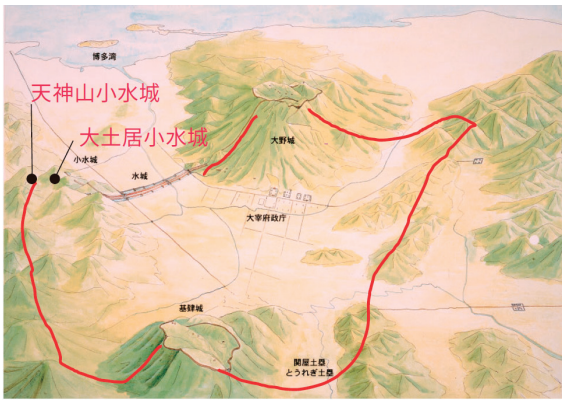
7 世紀の朝鮮半島は、北部に高句麗、南東部に新羅、南西部に百済という国があったんだよ！
このうち、新羅が唐と組み、百済を攻撃したことによって、百済は滅亡してしまったんだ。

〈大水城と小水城〉

水城は、東に四王寺山、西に牛頸山の山麓が迫る、筑紫平野の最も狭い場所に造られました。この水城のことを小水城と区別するため、大水城と呼んでいます。

大水城の土塁（土を盛って造った防御の壁）はこれまでの調査で、長さ約 1.2km、横断面の幅約 80m、高さ約 10m 以上もあり、土塁の外側には幅約 60m の濠があったことがわかっています。

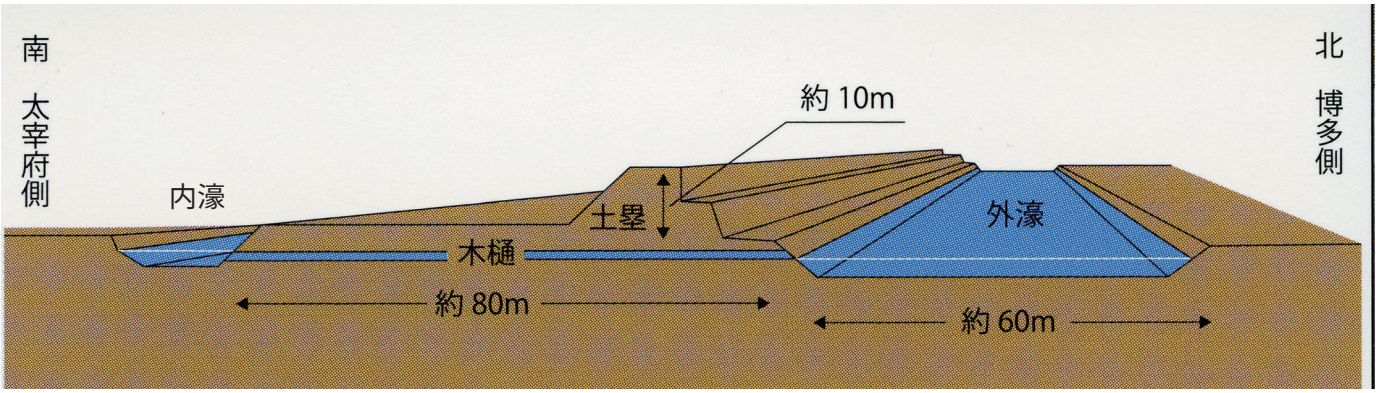
小水城は、大水城の西側に広がる低い丘陵地帯の谷を塞ぐために造られました。春日市の大土居水城跡、天神山水城跡、大野城市の上大利水城跡があります。



出典：九州歴史資料館「水城・大野城・基肄城の防衛ライン」

土塁だけじゃなくて、濠に水をためて防衛しようとしたから「水城」といわれたんだよ！

そうなんだ！昔の姿の水城も見てみたかったなぁ



▲大水城を横から見た図

出典：九州歴史資料館「水城断面図」

制作・発行　春日市 協働推進部 文化財課

水城について知ろう！②

水城がなんのために造られた施設なのかわかりましたか？次は、春日市内にある小水城、大土居水城跡・天神山水城跡について学んでみましょう。

水城がどんなものかはわかったけど、こんなに大きなものをどうやってつくったの？

当時、朝鮮半島から伝わった高度な土木建築技術を使ったよ！それも一緒に説明していくね！

〈大土居水城跡〉

大土居水城跡の土塁は東西方向に向かっており、長さ約 110m、高さ 7m 以上あります。

また、発掘調査時に全長 40m の木樋を確認しています。木樋は導水管として使われていました。これは、大きな板を組み合わせてつくられました。この木樋を使って、土塁の内側で集めた水を外側の濠に送り出していました。

▲大土居水城跡の木樋

〈版築〉

水城の築造には、「版築工法」という朝鮮半島から伝わった、最新の土木技術が使われました。この工法を使用して大規模な土塁を築くことは、当時では高度な土木工事でした。

版築工法は、性質の異なる土を木の棒などでつき固め、層状に積み上げる工法です。発掘調査で突き固めた跡が発見されています。

この版築工法での築造に使用する土を運ぶ作業は、全て人の手によって行われていました。

▶版築を使った工事の様子

出典：九州国立博物館「水城版築工事のようす（模型）」

〈天神山水城跡〉

天神山水城跡は、長さ約 140m、現状での高さは約 5m あります。大土居水城跡よりも小規模ですが、発掘調査によって、大水城や大土居水城跡とは異なる土の積み方をしていることが分かりました。

▶天神山水城跡

水城跡は特別史跡なだけでなく、日本遺産『古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～』構成文化財の一つなんだよ！

水城ってそんなにすごい場所だったんだ！
もっと知りたくなってきたよ。

◀日本遺産『古代日本の「西の都」～東アジアと交流拠点～』HP

制作・発行　春日市 協働推進部 文化財課